

吉田寮への寄せ書き

(2023.01-02寄稿分)

大学側からの突然の強制退去の件。

これからも残していきたい歴史ある学生寮であることはもちろんの事、実際に見学させていただいた時にたくさんの方から愛される学生寮は他にはないと思っています。

応援しています！！

(吉田寮ファン・望月)

訴訟撤回・対話再開の英断を、京都大学に切に求めます。私たち教員は、自由な学問と学生たちの未来のために、日々教壇に立っています。決して彼女たち・彼らを裁判に追い込み、消耗させ、貴重な若い時間と、大学にかけた夢と希望を奪うために、大学を構成しているではありません。大人はみんな子供だった。教員はみんな、かつて学生だった。私たちはみんな、かつて京都大学で、あるいは世界の一隅のキャンパスで、自由の刻印を魂に刻んだ二十歳の学生だった。今も生きている二十歳の私たちに、一日一日、目を伏せることなく、正面から向き合えるようにと願っています。吉田寮と吉田寮生たちはひとり(複数形)ではありません。京都の、日本の、世界の人々が、吉田寮とつながり、寮生たちを支え、注目しています。自由の学府・京都大学の名を惜しみ、尊厳と名誉ある歴史的転回を。

(大学教員・佐藤公美)

和田です。以前、大阪の仲間と二回ほど伺っています。学生自治の場が少なくなる昨今、吉田寮の存在は大きいです。僅かながら支援に関わりたいです。

(フリーター全般労組 組合員 介護労働者・和田拓磨)

これまでの経緯を一方的に無視して裁判を起こす京都大学。ほんとうにひどいです。学生のため、などと嘘をつかないでください。吉田寮を応援します！

(元寮生・kisa)

ここを目指してはや幾星霜、今年こそは。このようにあらゆる人間を優しく包み込んでくれる場所はこの日本に、ほとんど残っていない。そんな大切な場所を失くしてはならない。吉田寮よ、永遠に。

(大学生・Naoki Mizuno)

以前宿泊させていただいてから大ファンです。コロナもあり近年は行けていませんが、まだまだ吉田寮のあの空間を継いでいただきたいです。大好きな空間です。(吉田寮ファン・yully)

友人に連れられ、過去2、3回お邪魔し、コタツでお酒を飲みました。伺ったとき既に酔っぱらっていたので、どなたと何を話したか全く覚えていません...次は記憶の確かなうちに伺い、話の内容も、吉田寮内の光景も覚えていたないので、存続していただきたいです。

(吉田寮ファン・猫毛)

学生時代に東大駒場寮自治会として交流させていただきました。もはや数少ない自力自闘の学生寮自治会に対する京大の突如かつ異様な排除攻撃は許せません。ともにたたかわん。

(吉田寮ファン・よねざわいずみ(フリーター全般労働組合代表者))

私の大好きな吉田寮。京大受験すると決意した理由となった吉田寮。私が来年京都大学に合格して暮らしたい。残っていて。

(高校生・うえい)

寮は人の集う場所、自由に学びお互いを認め合える吉田寮を失うことは多大な損失となる。一方的な決定では無く京大側には双方の折り合いのつく地点を民主的で対話的な解決法で模索していただきたい。私は吉田寮の廃寮に断固拒否します。(大学生・匿名希望)

吉田寮現棟は時代の流れの中で失われていった数々のものを今も大切に守っている場だと思えます。色々事情はあるかもしれませんが、なくなってしまうとしたらその損失は計り知れないものになってしまう気がしています。

(吉田寮写真集作者)

「21世紀に吉田寮を生かす元寮生の会」の事務をしています。色々な人と吉田寮について話し、学ぶ事がとても楽しいです。もっと吉田寮に遊びに行っておくさん交流したいです。

(近畿大学・教員 富岡勝)

自治寮在住の学生の最も大切な寮を自主管理するだけでなく修理し後輩の生活にも寄与する行動力は自治の精神として尊い。本来大学が責任をもってすべき行為であり、大学には反省を求め、社会に対し責任ある行動をとって欲しいと強く要望する。

(東海学園大学名誉教授 1960年卒寮生・奈倉道隆)

1988年4月から2000年3月まで、経済学部4年間・修士課程2年間・博士後期課程6年間の計12年間在寮していました。経済的に助かったこともさることながら、時には夜通しで徹底的に話し合ったという経験は、少なくとも私の場合、吉田寮に入らなければ得られなかったと思います。

(元寮生・山本英司)

元寮生です。当時は在寮しただけであまり寮内にも関わっていませんでした。いま、文化は守り育てることなく成り立たないものであり、人間が人間になっていくために欠かせないものだと思います。

(元寮生・米田量)

吉田寮取り壊し絶対反対
学生から自由を奪ってはいけない

(寮外生・文化書生)

吉田寮への 寄せ書きのお願い

吉田寮は、京都大学当局による「吉田寮現棟・食堂明渡請求訴訟」を受け、不本意ながら法廷で争わされています。吉田寮自治会は大学当局へと訴訟の取り下げと話し合いの再開を繰り返し求めておりますが、未だに事態の好転は見込めておりません。

このような状況下で、私たちは「寄せ書き」を通じて吉田寮存続に賛同する方々の「声」を広く多く集め、民主的な対話と京大の自由を愛する人々との連帯を示したいと考えています。

メッセージの内容は、吉田寮に向けての応援メッセージのほか、京都大学に向けてでも構いませんし、また根を同じくする他の問題についてでも構いません。

ぜひ、下記のフォームからご記入ください。



<https://forms.gle/478qvRnqqSGiSmMp7>